

PAC 分析学会

第 2 回大会 プログラム・発表抄録集

2008 年 12 月 6 日 (土)

東邦大学

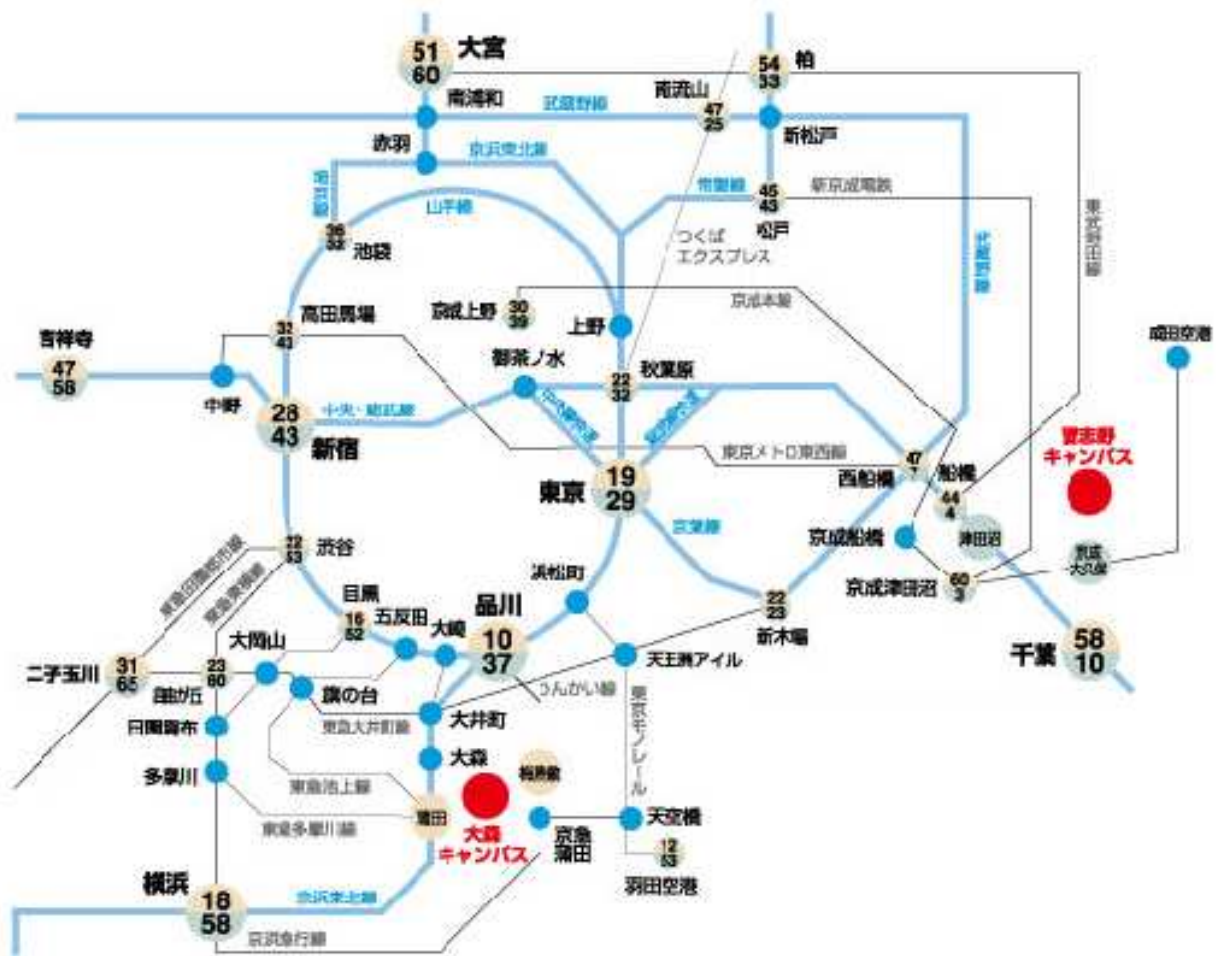
会場へのアクセス

東邦大学 大森キャンパス（医学科）

〒143-8540 東京都大田区大森西 5 - 21 - 15

03 - 5493 - 5427（医学部心理学研究室直通）

#学内・近隣には十分な駐車スペースがございませんので、お車での来場はお控えください。



注：駅名の下に表示されている数字は上の数字が蒲田駅までの平均所要時間になります（下の数字は習志野キャンパスの最寄り駅までの平均所要時間です）。

JR・東急線を利用の場合

JR 京浜東北線，東急池上線・多摩川線「蒲田」駅から徒歩 20 分。もしくは東口 2 番バス乗り場から「大森駅」行きに乗車（5～10 分），「東邦大学」下車後徒歩 3 分。

京浜急行線を利用の場合

梅屋敷駅（各駅停車のみ）より，徒歩約 10 分。

羽田空港をご利用される場合は京浜急行線の利用が便利です



蒲田駅・梅屋敷駅から東邦大学までの地図

キャンパスマップ



会場：医学部2号館M3階第3実習室（メディカルリソースセンター）
（图中Gの建物の3階のつきあたりになります）

大会参加者へのご案内

1．受付

受付は大会会場（2号館 3階第3実習室）前になります。事前に参加希望の連絡をされた方は受付で参加費等をお支払いいただき、参加証とプログラム・発表論文集をお受け取りください。

当日参加の方は当日参加申込書にご記入ください。その後、参加費をお支払いいただき、参加証とプログラム・発表論文集をお受け取りください。

2．大会会場について

大会の会場となっている教室では会場校からの指導により、お食事をとっていただくことができません。会場校内でお食事をとられる際は学生食堂あるいは学生ラウンジ（場所につきましては当日ご案内いたします）をお願いいたします。

3．喫煙について

所定の場所以外での喫煙はご遠慮ください（場所につきましては当日ご連絡いたします）。

4．参加証（ネームプレート）について

参加証はお帰りになる際にお返しいただきますよう、お願い申し上げます。

発表者・座長へのご案内

1. 発表者の先生方へ

- 1) プログラム・発表論文集への論文掲載に加え，発表会場での発表によって正式発表と認められます。
- 2) 1 演題の発表時間は 20 分で，10 分間の質疑応答を設けます。係員が下記のようにベルを鳴らして時間を知らせます。
発表開始 15 分後（残り 5 分）・・・・・・・・ 1 鈴
20 分後（発表終了）・・・・・・・・ 2 鈴
30 分後（演題終了）・・・・・・・・ 3 鈴
- 3) 発表は座長の指示に従って進めてください。
- 4) 責任発表者が欠席した場合，発表取り消しとなります。連名発表者がいる場合には，大会事務局の承認を得て発表を代行することができます。
- 5) PowerPoint にて発表される先生方は発表用の PC を持参されるようお願いいたします。なお，操作は発表者が行うこととなりますので，その点についてもご了承ください。
- 6) 当日配布資料がある場合にはその旨ご連絡ください。資料の印刷は大会会場ではできませんので，発表者が用意していただきますようお願いいたします（資料は 50 分程度ご用意願います）。

2. 座長の先生方へ

- 1) 1 演題につき，発表 20 分，質疑応答 10 分と設定しております。スケジュール通りの進行をお願いいたします。
- 2) 発表者の欠席があった場合は繰り上げて進行してください。

大会行事

本大会行事は全て医学部 2 号館 M 3 階第 3 実習室で開催されます。

研修会「PAC 分析における IT の利用」(9 : 30 ~ 12 : 30)

講師：内藤哲雄 (信州大学)

「PAC 分析のプロセスで何が起きているのか：技法・統計・解釈」

講師：土田義郎 (金沢工業大学)

「PAC 分析支援ツール PAC-assist の紹介」

講師：今野博信 (登別市立鷺別小学校)

「PACHelper (パックヘルパー) の使い方」

研究発表 1 (13 : 30 ~ 15 : 00)

座長：井上孝代 (明治学院大学)

発表者：石橋里見 (芝浦工業大学) ・ 内藤哲雄 (信州大学)

「大学生の就業自己イメージ変容に関する PAC 分析」

吉村順子 (鶴見大学文学部)

「森田ワークショップにおける演劇経験者の態度分析」

今野博信 (登別市立鷺別小学校)

「PAC 分析による学校教職員間の学校観比較」

Free Discussion & Coffee Break (15 : 00 ~ 15 : 30)

研究発表 2 (15 : 30 ~ 17 : 00)

座長：岸 太一 (東邦大学)

発表者：坪根由香里 (早稲田大学) ・ 小澤伊久美 (国際基督教大学) ・

嶽肩志江 (横浜国立大学)

「教師のピリーフ研究における PAC 分析活用の可能性と留意点 HALBAU と SPSS による分析結果の相違についての考察から」

堀 恭子 (横浜国立大学大学院環境情報学府)

「森田ワークショップにおける演劇経験者の態度分析」

伊藤武彦 (和光大学) ・ 芳澤宏樹 (虎ノ門神経科龍醫院) ・

井上孝代 (明治学院大学)

「PAC 分析の拡張としての HITY 法による個人別態度構造
分析 父母感の子育て観を比較した HITY 法 類を中心
に」

閉会の辞

懇親会について

諸事情により、今年度は学会主催の懇親会を行わないこととなりましたが、内藤先生を囲んでささやかな食事会（交流会）を行うことを予定しております。希望される方は事務局（岸）までその旨お伝えください。

発表論文集

大学生の就業自己イメージ変容に関するPAC分析

第一志望企業内定後における就業自己イメージの変容

石橋 里美
(芝浦工業大学システム工学部)

内藤 哲雄
(信州大学人文学部)

key words: 就業自己イメージ, 職業指導, 職業観

はじめに

近年、若年層の離職率の高さや勤続年数の短期化(国民生活白書, 2007)、新卒無業者の増加(文部科学省, 2005)が問題となっており、また他方では、青年の職業行動や職業意識の変化、多様化が報告されている(社会経済生産性本部・日本経済青年協議会, 2004)。このような情勢の中、実証的研究においては、従来の職業イメージや職業価値観の理解を標榜するだけでは、青年の職業選択行動を説明できないことが指摘されている(例えば; 菰田, 2006)。

ところで、清水ら(2003)は、従来の、職業観や職業的価値観とは異なる、新しい概念として、“就業自己イメージ”を提唱している。すなわち、“就業後に自己が置かれる状況や、周囲からどのような影響を受けるかに関する、職業の種類という枠を越えた見通し”と定義し、職業指導における重要性を示唆した。

この、就職前に抱く“就業自己イメージ”は、個人内部で様々に変容していくと考えられる。大学生の職業観は、在学中の就職活動やインターシップを通じて変容することが明らかにされており(例えば; 笹瀬, 2008)、事例記述的研究としては、内藤(1993)が、就職活動開始時と就職直前の就職への態度構造の変化を、縦断的研究で明らかにしており、PAC分析の活用がキャリア・カウンセリングに有効であることが示唆されている。

実際の職業指導、キャリア・カウンセリングにおいては、就職協定廃止(1997年)以降の、大学生の就職活動の早期化と長期化の影響も相まって、このような自己観の変化をクライアントが自覚的にとらえ、新たな目標設定へとつないでいく援助が求められている。すなわち、クライアントの多様な出来事や情緒的経験の蓄積上にある、職業的アイデンティティ形成のダイナミックな過程を理解する、個別のアプローチが必要であるといえる。

本研究では、キャリア・カウンセリングにおけるアセスメントツールの開発をめざし、PAC

分析(内藤, 1997)の手法を用い、“就業自己イメージ”の変容過程を検討することを目的とした。

方法

被検者: 研究の趣旨に同意した、東京都内の4年制大学文系4年生、男子。就職活動量は表1の通りであった。調査実施は、第一志望企業内定取得より6カ月経過した時期であった。家族構成は父(公務員)・母(専業主婦)・弟(高校生)であった。

表1 被検者の就職活動量

エントリーシートを送った企業数	8
会社説明会に行った企業数	70
OB,OG訪問で会ったOB,OGの人	9
面接等の試験を受けた企業数	10
獲得した内定企業数	1
就職活動を意識するようになった時期	大学3年時6月頃
両親への就職活動状況伝達頻度	月1回程度
就職活動に関する親からのサポート	強い決め付けや押し付けは就職活動に関していえば無く、自身の選択に関しては寛容的な態度であったことも、ある意味良きサポートだったかもしれない。(被検者自由記述回答)

使用分析ソフト: HALWIN

手続き: 提示刺激として「あなたは、職業選択や志望先企業決定の際に、あなた自身が影響を受けた、出来事や人物について、どのようなイメージをお持ちでしょうか。自分自身の就職活動を踏まえて、職種、業種、志望先企業を決定していく過程を振り返ってみてください。また、内定先企業で働くことは、あなたのライフサイクル、これからの人生、将来にどのような意味を持つと感じるでしょうか。仕事や仕事以外の生活についてもイメージしてください。」と教示してPAC分析をおこなった。なお、刺激文は長文であったため、提示したままで連想させた。

結果

重要順位、クラスター及び単独イメージの結果は図1の通りであった。(+)が29項目、(0)が9項目であった。構造全体ではプラスのイメージが強く、肯定的自己イメージを持っている

ことが示されたが、0項目が全体の1/3程度を占めることから、やや自己疎隔的な（感情的にかかわらない）傾向が示唆された。

《被検者によるクラスターの解釈：抜粋》

クラスター1（最大数多くの人に、最大限愛されて生きていけるように。～仕事だけに没頭すると茫然自失してしまう時がくる）：成長ということがキーワード、軸になっている。結局、成長するため。一番上の文章（最大数多くの人に、最大限愛されて生きていけるように。）...自分の幅を広げ、大きくなる必要がある、その結果、人にも愛されるようになる。その成長を考える材料として、今、考えられる経験で語っている。自分の望む、愛されて生きられる自分の姿...成長を表す言葉にすると、こういう言葉が並ぶ。仕事だけでなく、家族もあって、自分の楽しみもあって幸せになれる。成長していくためには、心・技・体の体、健康維持力が重要...

クラスター2（なぜ働くのか？～白・青・黒赤）：社長とか起業とかいう道を残しておきたい気持ちが強く出ていると思う。就活を始めてから悩んでアクションし続けて、言語化した要素。「何故働くのか？」にあるように、今、こうして言語化してあるものの、まだ悩み続けている内容...

クラスター1と2の比較：わりと、両方とも仕事のことを考えているけど...上（クラスター1）は、理想、本当の自分が求めているもの、求めている状態、欲しかったり、なりたかったり、個人的な願望...下（クラスター2）も自分のことではあるけれど、社会的に言われていることを要素として出していて...なんていうのか、働く環境に求めるものが下（クラスター2）にある...社会的に、マスコミなんかでよく聞きそうなことが含まれている感じがする...上（クラスター1）は、個性、自分の経験したことからのことで、下（クラスター2）は、よく言われている要素で自分が気に入っているものを並べた気がする...。下（クラスター2）は上（クラスター1）の状態や環境を得るためのフィールドというか、要素であるような気がする...(デンドログラム上の該当する文章を指でなぞりながら)「なんで働くの?」とか...

全体のイメージ：仕事と成長と社長...。自分の高い意識レベルを持つことが重要だと思っている、自分があらわれていて、偏っていて、大丈

夫か、自分って感じ...自分は「がちがち」のかな...仕事と成長で頭がいっぱいな人、それで、「がちがち」になっている自分だ。茫然自失してしまいそうな...家庭も大事にしたい自分...。全体に、社長になれるのかどうか、起業家に向いているのか、自分はやりきれなのか、の迷いとか、色々なものがある...。社長になること、ナンバー1になることと、ナンバー2では全く違う。そういう仕事一筋で生きていくことが、やりきれなのか...。家庭と両立した生活は成り立つのか、とか思う...社長やって、子供のいる人もいるけれど、どうやって時間をとるのか、うまく回しているのかな、と思う...父は公務員だった。引っ越しもなく両親が離れることもなく、父は安定志向...それじゃ、つまらない、大事なことだけど...つまらないと思う、人生一回しかないから...

補足質問「志と運」：経営者の本、N先生がいていることで、人生で大事なものだと思っていること。志が高いことは自分にとって重要なことで、運も自分の責任だと考えることも重要なこと。

「家庭は円満。男の子2人。なるべく裕福に」：家庭は満たされていることを望むし、子供をしっかり和中身のある人間に育てたいと思う。そして、できれば裕福な環境...。親の教育が子供の成長の全て。家庭教育、家族はくつつがえせない、子供をもつなら、ないがしろにしたくない意識がある、責任があると思う。

「仕事だけに没頭すると茫然自失してしまう時がくる」：前は、起業とか経営者がいい、仕事一筋に生きていく、でも、いいくらいに思っ、就活して希望の会社に内定した。情報を逃すことなく漏れのないようにして、多くの企業の人に会って、ゼミとかあるなかでも、悔いのないよう、やれる限り就活はやった...でも、今は...M社での仕事をしたり、経営者を見たりしているうちに、何か違う気がして...、自分はあそことは、変わった...仕事だけしていたら、やってられなくなると思う。仕事以外のものも大事だと...。

「ニーズのある職種、自分がのめり込める職種」：必要性があるところで自分に適したところだと、食いつぶれない。やりたいかどうか、好きか嫌いかな...のめり込むためにはスキルが必要で...。時代を動かしていく楽しさとか、裁量権、スキル、職位、こういうのが揃って、のめ

り込める。

「自分なりの軸」：何で働くのかを考えたとき、自分の軸をイメージした。一番上（最大数多くの人に、最大限愛されて生きていけるように。）に行き着く。成長のために働く、幅が大きくなって、人々への影響力を持って、大数多くの人に、最大限愛される...仕事を通して...何故働くのかに対しての自分の軸。

「白 青・黒 赤」：白は就活、何も分からず真白、青は色がついているけど、学生だから浅はか、黒はR社に内定したことのイメージかな...、赤はR社のイメージ... R社で燃えている自分。

《被検者についての総合解釈》

クラスター1は、被検者の個性（下線）理想とする自己観やライフスタイル、重要視している自己成長感等でまとまっており<アイデンティティ形成のための個人的準拠基準>と命名した。クラスター2は、就職活動から内定後の現在に至るまでの、社長・経営者・起業家としての生き方へのイメージ変化を中心に構成されており<就業自己イメージの変容過程>と解釈した。

クラスター構造から全体を検討すると、クラスター1と2は、「仕事だけに没頭すると茫然自失してしまう時がくる」と「白 青・黒 赤」とで結節している。下線部の自己開示を併せて考えると、被検者はアイデンティティの再体制化（岡本，1997）の時期にあると推測できよう。これらは、第一志望企業内定後の現状を「黒」と表現したこと（下線）にも象徴されていると考えられる。

注目すべきは、下線部であろう。クラスター間の比較をしながら分析を進めることにより、被検者は次第に自己の内面を探れるようになり、就職活動期に形成した就業自己イメージへの違和感を捉え、さらに自己洞察を進め、無意識レベルの内在化された価値基準について、気づきを得たことである。これらは、Erikson(1959)の個体発達に依拠するならば、青年期の重要な課題である「社会的役割をどのように自分の中に取り入れていくか」を、被検者が自覚的に追求していくプロセスの一部でもありとも解釈できる。

本研究の結果は、実際のキャリア・カウンセ

リング場面でも応用可能であり、PAC分析の有効性を示すものといえよう。また、就業自己イメージを用いることで、将来的展望を包含する、自己理解への援助が可能になることが示唆されたといえよう。

文献

- 小此木啓吾（訳）1973 自我同一性 誠信書房
Erikson,E.H. 1959 Identity and The Life Cycle.
菰田孝行 2006 大学生における職業価値と職業選択行動との関連 青年心理学研究
菰田孝行 2006 在学中の就職活動とその後の社会人経験を通じての職業選択に対する意識変容 聖徳大学児童学研究所紀要
文部科学省 2005 学校基本調査
内閣府 2007 国民生活白書 平成19年版
内藤哲雄 1993 職業への態度と変容の個人別構造分析 日本社会心理学会第34回大会発表論文集, 46-49.
内藤哲雄 1997 PAC分析実施法入門-「個」を科学する新技法への招待
中川洋子 2007 職業選択行動の促進要因に関する序論的考察 聖カタリナ大学人間文化研究所紀要
社会経済生産性本部・日本経済青年協議会 2004 平成16年働くことの意識調査報告書 社会経済生産性本部・日本経済青年協議会
笹瀬佐代子 2008 インターンシップが職業選択に及ぼす影響 学術教育総合研究所所報
清水裕・下斗米淳・風間文明 2005 大学生の就業自己イメージ尺度作成の試み 社会心理学研究, 20(3)
竹内倫和・竹内規彦 2008 新規学卒就職者における求職行動と組織適応 第75回大会発表論文集
岡本祐子 1997 中年からのアイデンティティ発達の心理学 - 成人期・老年期の心の発達と共に生きることの意味 ナカニシヤ出版



図1 被検者のデンドログラム

森田ワークショップにおける演劇経験者の態度分析

吉村順子
鶴見大学文学部

key words: 即興演劇、演劇ワークショップ、自己受容体験

はじめに

筆者は演出家森田雄三による「イッセー尾形のつくり方ワークショップ」に3年間参与観察を継続し、分析を続けている。このワークショップは多くの場合演劇の未経験の参加者が、即興のせりふをつくらうとして、自分の弱いところや隠しかった部分に向き合い、その弱点やコンプレックスに関する部分を発表公演に生かすことになる。結果、参加者の多くがより自己受容的な態度になり、変容していった(吉村 2008a,b,c)。

森田WSでは、主として演劇未経験者を対象とし、4日から1週間くらいの稽古により、参加者自身がせりふをつくり、二日間の本番舞台に立つ。主役とか脇役という設定はなく、日常においてそのような、各人がその主体の主役として振舞う。

せりふや設定は、本番の直前まで変更され、ほとんど即興劇である。稽古は都合によって遅刻や中途退室が認められる。本番のうち、どちらか一日しか参加できない人も多く、二日目には、シーンの組みかえや、演じ手の交替が起こりうる。結果、台本と長い稽古で練り上げていく演劇になっている参加者にとっては、とまどいと、無力感を感じることにしやすい。

一方、演劇の未経験者には新鮮で自己関与の経験として高く評価されている。また、しばしば未経験者が、新鮮な体験として思い切った自己表出をするため、舞台上でも観客から大きな関心をもたれることが少なくない。

そこで、演劇経験者にとっての森田ワークショップの内的体験を事例研究し、演劇経験者とワークショップとのマッチングについて検討することを本研究の目的とする。

今回、演劇を専攻する短期大学生を対象に、ワークショップが実施され、その参加者に体験に対しての態度をPAC分析により調査した。そこから、演劇経験者と森田ワークショップとの関係性について検討し、演劇経験が森田ワークショップにおける自己受容過程にどのような影響や要因をもっているのかを分析する。

対象と方法

被検者：2008年3月に実施されたイッセー尾形のつくり方ワークショップに参加した東京都内の芸術系大学演劇科の学生のうち、調査に自主的に参加してくれた学生4名。全員女性で、20歳前後。
提示刺激：森田ワークショップの経験について
分析：PAC分析
使用分析ソフト：PAC分析土田 Let'StatPro

結果

4人の学生は、ワークショップを好意的に評価した者から、違和感を感じた者まで、各様に分布した。4人のデンドログラムを図に示す。

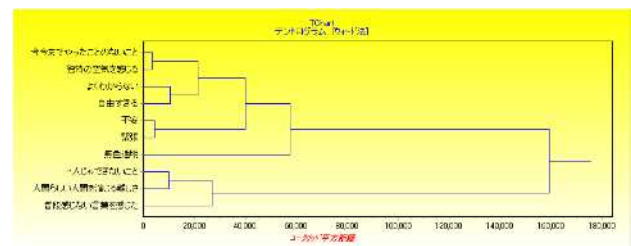


図1 被検者A

クラスター1 「とまどい」今まで子役としてお芝居の仕事していたときには、台本があって、立ち位置もきまっていたのに、このWSでは、あまりにも自由で何をしたらいいのかわからなかった。とまどっていた。違和感というより、これまでの経験に位置づけられなかった。

クラスター2 「不安と緊張」ですかね。なにをいうかきまっているのがこれまでの演劇。あらかじめ練習していくことができず、不安で緊張した。

クラスター3 「無色透明」これから何色になるかわからない。

クラスター4 クラスター1と似ている。普通のやりとりを芝居でやるのが難しいということ。

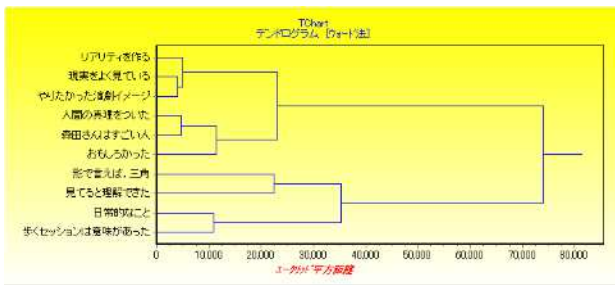


図2 被験者 B

クラスター 1 現実で起きていることを演劇でやってみたかった。それに近いWSだった。

クラスター 2 森田さんは人間をよく見てた。この人おもしろいなと思った。

クラスター 3 三角っていうか、このWSは円ではないな、という感じ。

クラスター 4 普通に生活している人が変な歩き方してるってことをやった。こういう人いるよな。それが日常なんだと思った。

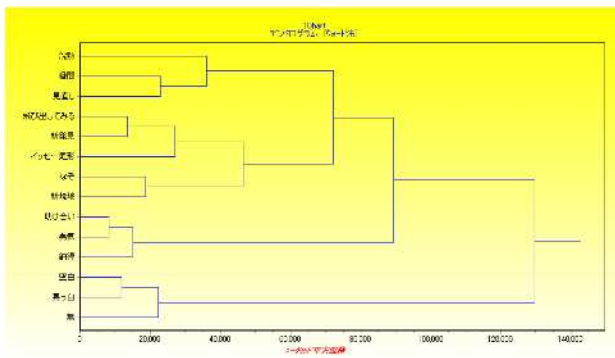


図3 被験者 C

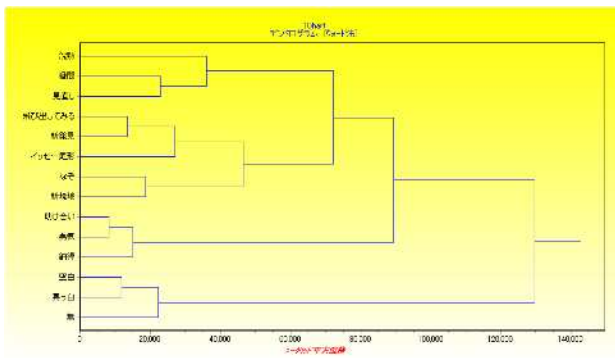


図4 被験者 D

結果と考察

4人に共通しているのは、初めての体験として森田WSをとらえたことであつた。演劇経験者であるにもかかわらず、まったく未知の体験であるという認知において共通していた。つまり、既成の演劇経験とは異なった領域の表現方法であると認知された。しかし未知の体験と認知した後、WSに接近しようとするか、立ち止まるか、遠ざかるか、引き寄せようとするか、において

4名の被験者は異なった固有の態度を取つた。

被験者Bは積極的に自分を発見したと評価した。Bは、日常生活におけるリアリティを表現したいと常々考えていたが、演劇を学ぶ上では実感としてとらえることができないでいた。求めていたものに近い経験ができたとして、積極的に評価した。被験者Aは混乱を経過したのち、これまでの体験と比べて異なっていることに対して、まったく白紙の状態として認知し、これからこの体験をどのように位置づけるかはまったくの未知であるとしながらも、方向性の定まらない無垢の可能性を見出した。1名は、被験者の中でもっとも既存の演劇を身につけて活動していた。そのため、混乱も大きく、発表公演の前に、演出者の指示に対して感情を乱す経験をした。この被験者Aでは、森田ワークショップは新しいということが否定的な意味をもちかけた。しかし、インタビューの結果、被験者Aにおいては、自分の演劇とは異なるが、もし立場が違えば楽しむことができる活動と位置づけていた。これは、今後の自分の可能性の一つであるが、しかし、自己とはかなり距離感のある可能性であるということである。

ワークショップ参加学生は40名余りであるが、調査インタビューに応募してくれたということで、ある程度WSに対して好意的な態度をもっている被験者ではある。しかし、WSに対する態度は見事に多様に分化した。通常のワークショップでは、インタビューすると、出演者は本ワークショップへの満足度は一様に高い。しかし、演劇を専攻するがゆえに、本ワークショップを既存の演劇的構えにどのように定位していくか、ということが問われる作業だったのだと思う。

文献

吉村順子 2008 a 森田雄三による演劇ワークショップ発表公演の特徴について 鶴見大学紀要45号

吉村順子 2008 b 森田演劇ワークショップと表現による心理療法の比較 鶴見大学比較文化研究10号

吉村順子 2008 c イッセー尾形のつくり方ワークショップにおける参加者の自己受容について 明治大学心理社会学研究第3号

(Yoshimura Junko)

PAC分析による学校教職員間の学校観比較

今野 博信

(登別市立鷺別小学校)

key words: PAChelper(バックヘルパー) 学校イメージ 自己理解

はじめに

学校教職員がいただく学校イメージを、半構造化されたインタビュー(PAC分析:個人別態度構造分析)をとおして描き出すことを目的としている。今回はとくに小学校における教員と教員以外の立場で子ども達に接している職員(介助員,特別支援教育支援員)の学校イメージを比較しているが、継続して幼稚園や中学校,高等学校など校種の幅を広げていき,学校種ごとの教職員間の差を描き出していきたい。

現在の学校教育では,各学校種の間や他機関との連携と相互理解の必要性が高まってきており,また,各学校種ごとの専門性についての内省的な理解も必要とされてきている。

具体的に通常学校における特別支援教育の実施場面を見てみると,これまでのように学級担任や教科担任が単独で学級運営や授業を受け持つのではなく,学習支援担当の学校職員(支援員・支援補助員)の配置にともなう協働による対応が進められつつある。さらに,個別の支援計画立案に際しては,特別支援学校や医療機関との連携が前提となっている。また,幼児・児童・生徒理解は,教育の基本となる営為であるが,そのための教育相談活動には心理士などによるカウンセリングやアセスメント協議などが必要とされている。

しかし,そうした際に,学校教職員がいただく学校イメージの独自性が自覚されないまま各専門家との協議が進められるのでは,検討内容や実施過程での無用な誤解やストレスが生じかねない。学校教職員が,どのような点にこだわりをもち,どのような点にやり甲斐を見出しているかなどの知見を当人と関係者が前提とすることで,よりよく協議を活性化させていけるはずである。このことは逆に,関係諸機関の各専門家が,どのような学校イメージをもっているかを教職員の側が理解しておくことで議論を焦点化させやすくなることにつながるであろう。

また,個人のイメージを対象とすることで,

マイナス要素(例えば,学級崩壊への恐れや保護者との対応についての緊張感など)にも注目できるようになるはずである。こうした点への理解を深めることは,教職員自身がメンタルヘルスを意識的にコントロールするために必要なものと考えている。その際には,PAC分析が備えているカウンセリング的な機能を有効に活用することになる。

方法

調査対象者:A介助員(男性),B支援員(女性),C支援員(女性)の3名。いずれも30代で教員資格は採用条件ではない。配置先は特別支援学級と通常学級とに分けられ,仕事内容や勤務条件にも幾つかの点で違いがある。

提示刺激:小学校のイメージ

「あなたにとって小学校とはどのようなものですか。これまでのこと,今現在のこと,これからのことなどどんなイメージでも結構です。感じたとおりに教えてください。」

手続き:2008年の一学期終了後の7月に,それぞれ個別にPAC分析を実施した。得られた結果から,各人の学校イメージを比較検討し,必要に応じて先行実施の教員の学校イメージとも比較検討した。

使用分析ソフト:データ収集にはPAChelper(PAC分析支援の自作ソフト)を用い,クラスター分析と統計処理にはMSエクセル(アドインソフトを含む)を用いた。

結果

教員対象の先行調査(今野,2007)では,反応

表1 正負評定

	+	-	合計
A	3	6	10
B	10	0	11
C	8	1	10

項目数の最少が13で最多が19であった。項目数の平均値をt検定すると、教員の反応数の方が今回の学校職員の反応数よりも有意に多かった ($t(3)=4.73, p<.05$)。

さらに、正負評定から回避度を求めて相互に比較すると、今回の学校職員よりも前回調査の教員の回避度の方が有意 ($t(3)=14.05, p<.01$) に高かった。この回避度とは、内藤(2002)において「情緒が喚起して苦痛が生じるのを避ける、『解離』や『自己疎隔感』の強さの指標として読み取れる」とされている数値のことで、項目数を全項目数で除した割合で示している。

意味に注目した結果では、ABC三者ともに自己に言及する内容の反応項目はなく、教員の場合には自己言及が必ずあったこと比べると対称的な結果といえる。また一方で、教員の場合と同じように現在の時制に関する反応項目が圧倒的に多かった。

三者間で共通する言葉について調べると、「子ども」という単語だけが反応項目の中に共通しており、「先生」と「あいさつ」の言葉は、二人の間だけで共通していた。

さらに、統合過程でのクラスター命名の際には、教員間では「子ども」「楽しい」「学校」「頑張り」「今」などの共通する言葉が見られたのに対して、学校職員間では「子ども」「社会」の言葉が、二人の間だけで共通していた。

総合考察

図1に示したデンドログラムには、子ども達の言動に対する憤りの表現が多く見える。学校外の要素の影響が大きいことと、間接的な形で子ども達と接するしかない現状へのジレンマを訴える様子は、言語報告からもうかがえた。そして、こうした思いは、学校職員でありながら保護者的な眼差しとして教員へ注がれる可能性につながり、そうした場合には教員を防御的に萎縮させる作用をもつことも考えられる。

回避度の高さ(の多さ)は、教員が学校の要素を多様に受け止めていることを推測させるが、それが同時に曖昧な態度表明ともなりうる。

一方でB支援員C支援員は学校イメージを肯定的に表現している。教員は、こうした支持を自己開示的に受け入れるべきであろう。しかし、その支持は全面的なものではなく、最終のクラスター統合では評定である意味を常に考えておくべきであろう。

文献

- 内藤哲雄 2002 P A C分析実施法入門[改訂版]「個」を科学する新技法への招待 ナカニシヤ出版
 今野博信 2008 個人別態度構造分析による小学校教師の学校イメージ比較 教育心理学会50回大会発表論文集

(Hironobu KONNO)

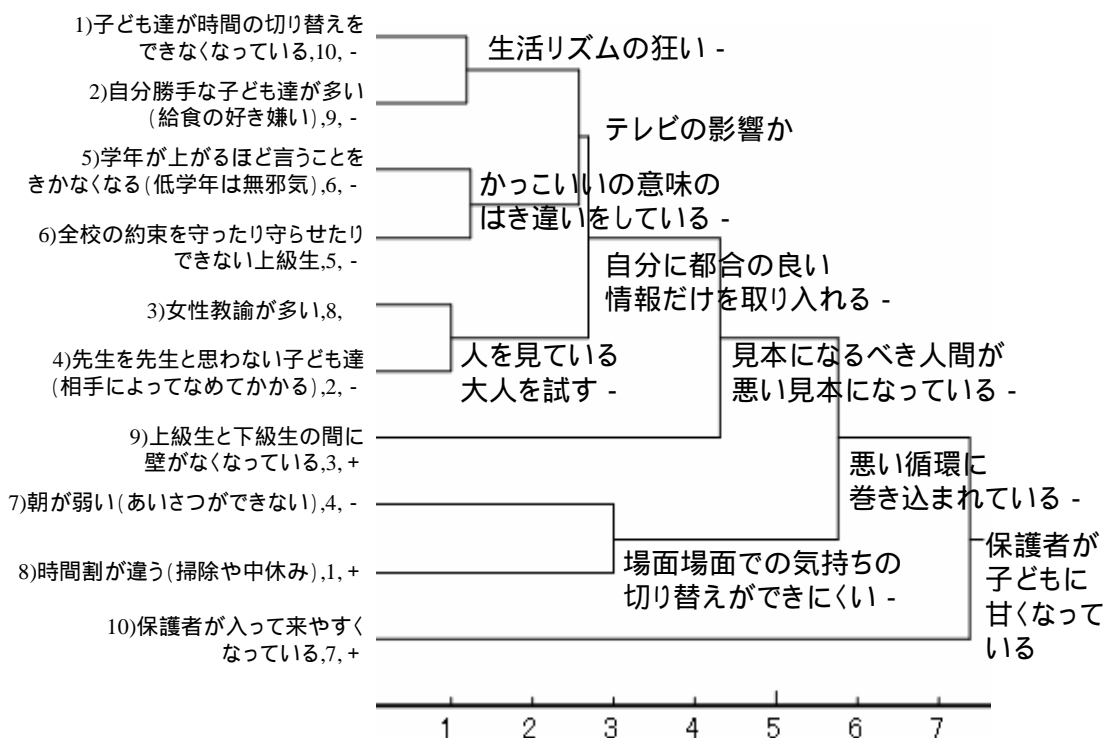


図1 A介助員のデンドログラム

教師のビリーフ研究における PAC 分析活用の可能性と留意点

HALBAUとSPSSによる分析結果の相違についての考察から

坪根由香里*・小澤伊久美**・嶽肩志江***
(*早稲田大学・**国際基督教大学・***横浜国立大学)

key words: 日本語教師、HALBAU、SPSS

はじめに

発表者らは、教師の実践的思考の解明を目的としたマルチ・メソッド研究を進めており、その一環として、教師のビリーフ研究にも取り組んでいる(小澤他 2004・2006、坪根他 2005、嶽肩他 2008)。ビリーフ研究では質問紙による量的調査の他に、PAC 分析も行う予定であり、そのパイロット調査として被験者 X に対して PAC 分析を行った。

調査当日は HALBAU 7 を用いてデータ処理をし、インタビューを行ったが、その後同データを SPSS16 で分析したところ、ソフトによるグラフィックの違いだけでなく、クラスター構造自体の相違が現れた。そこから、以下のようなリサーチクエスチョンが浮かび上がってきた。

- 1) PAC 分析は発表者らが行っている日本語教師のビリーフ研究に適したものなのか。
- 2) PAC 分析は上記研究にどのように利用できるのか。利用の意義はどのようなところにあり、何に留意したらいいのか。

そこで、本研究では PAC 分析をする際、使用するソフト間でどのような相違があり、なぜ相違が出るのかについて述べ、ソフトによる違いがどのように分析に影響を与えるのかについて考察する。その上で、PAC 分析活用の意義、使用する際の留意点についても検討する。

方法

被験者：大学勤務の 40 代女性現職日本語教師 X
提示刺激：あなたにとって「いい日本語の教師」とはどんな教師ですか。その先生は教室内外でどんな振る舞いをするとおもいますか。また、その先生は日本語教育についてどんなことを考えているとおもいますか。その先生と出会ったときあなたはどんな気持ちになるとおもいますか。そういったことを含めてあなたが「いい日本語教師」という言葉を聞いて思い浮かべるキーワー

ドやイメージを自由に書いてください¹。

手続き：本研究では、まず内藤(2002)に従って被験者 X に対する PAC 分析を、HALBAU を用いて実施し、その後 SPSS によってもデンドログラムを析出した(共にウォード法)。フォローアップインタビューを行い、HALBAU による PAC 分析について質問した他、SPSS から析出されたデンドログラムを示して X の解釈を尋ね、HALBAU によるデンドログラムとの相違点に関して質問した。PAC 分析は 2008 年 3 月、フォローアップインタビューは 2008 年 8 月に実施した。

使用分析ソフト：HALBAU7、SPSS16

結果

1. 被験者 X の 2 つのデンドログラムの構造の共通点と相違点

図 1、図 2 に HALBAU7、SPSS16 によって析出されたデンドログラムを示す。

< 共通点 >

大きく 3 つのクラスター(以下 CL)に分けられる。

その 3 つの CL の内部の構成項目が「ほとんど」同じである。

項目 8、13 はどちらのソフトでも最後のほうに併合されている。

< 相違点 >

項目 5 が CL1、2 のどちらに入るかが異なる。

CL1、2 の内部の結節の過程(併合過程)が異なる。

このようなソフトによる違いは、同値の処理の際、どの順序で併合されていくかが異なるためである可能性があるということである。また、

¹ 本研究は、背景の異なる日本語教師同士の協働的な教員研修に資するような知見を得るために、日本語教師はどういう観点から「いい日本語教師」を考えているかを探るうとするものである。日本語教育は教科教育と異なって、教える対象・内容・その他様々な側面で多様であるため、単に「いい日本語教師とは」という刺激では表層的な相違しか現れない可能性があると考え、刺激文の段階で詳細な記述にし、連想語に広く深い思考が表れるよう配慮した。

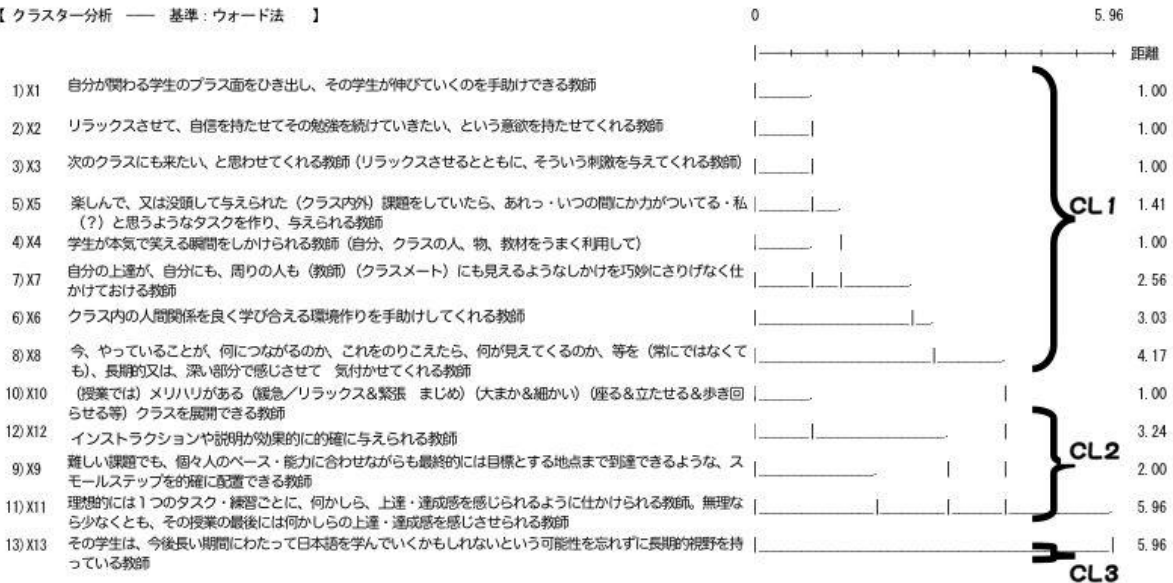
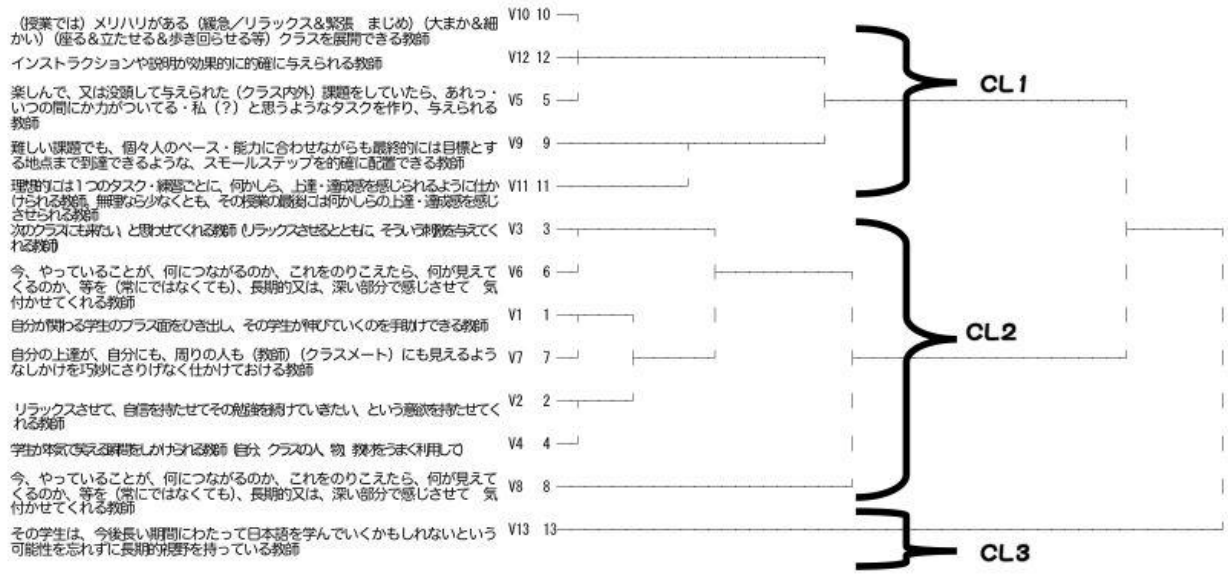


図1 被験者 X の HALBAU7 によるデンドログラム



Dendrogram for X by SPSS 16.0 for Windows

図2 被験者 X の SPSS16 によるデンドログラム

表1 連想項目間の類似度距離行列

0												
1	0											
1	1	0										
2	1	1	0									
1	1	1	1	0								
2	2	1	2	3	0							
1	1	1	1	1	2	0						
3	2	2	2	2	3	3	0					
2	2	2	2	1	3	2	3	0				
3	2	2	1	1	2	3	3	3	0			
3	3	3	2	3	2	3	3	2	3	0		
3	4	2	3	1	3	3	4	2	1	2	0	
4	4	3	4	3	4	4	5	5	5	6	7	0

内藤他 (2008) では、同じソフトウェアを利用しても入力順序が異なればクラスター構造が異なること、経験的に重要度順に入力・演算する

方式で有効な解釈が得られたと指摘されている。本研究では SPSS, HALBAU とともに重要度順に入力をし、ワード法による分析を試みたが、それでも、図1・図2のように異なる形状のデンドログラムを得た。ここで取り上げるのはその両者の違いについてである。

2. 被験者 X の PAC 分析の結果：HALBAU より CL1:項目 1 ~ 8「学生が気持ちよく学べる環境」
- ・モチベーションを考えるようになった契機は、フランス語でのおちこぼれ体験。
 - ・留年したくないというネガティブなモチベーションでは持続せず、自分の中から出てくるモチベーションを持続させることが大切。
 - ・教師によるモチベーションを持続させる環境づくりの必要性。

・X は項目 5 と 7 に対して違和感：具体的な手段であるため、CL2 のグループに入る。

CL2：項目 10～11「教師によるクラスコントロールの方法」

・モチベーションを持続させるための具体的な活動設計や活動方法。

CL3：項目 13「長期的視野の必要性」

・できない学習者への意識：学習者の人生の一部としての語学学習ということ意識。達成感、成功感、自己効力が感じられるクラス。

総合的解釈：項目 11 は、CL2 が収斂していく項目であり、CL1 と CL3 をつなぐ要である。CL1 の項目 8、CL2 の項目 11 と CL3 の項目 13 が項目 11 を要として結合していることから、学習者の「達成感」が、教師のクラス運営で大切なことであり、長期的視野のもとで学習者のモチベーションを維持し、高めるために非常に重要であると考えていると言える。

3. 被験者 X の PAC 分析の結果：SPSS の結果とインタビューより

・CL1：項目 10～11「クラスまたはクラス外での課題や課題の与え方」

但し、X は、項目 11 は気持ち的なものだから CL2 に行くほうが良いとした。

・CL2：項目 3～8「意欲が持続できるような気持ち、いかに手助けできて、持続していかるか」意欲を持続させるための、環境づくり」但し、X は、項目 8 は 13 と関係があるから CL3 が良いとした。

・CL3：項目 13「長期的視野」

・その他：HALBAU のデンドログラムも見せ、当時のインタビューでは項目 5 の位置に違和感があったことについて尋ねたところ、「気持ち的なものとして CL2 に入れるか、タスク作りというのでもう少し物理的なものとして CL1 に入れるか、どちらに分類したらいいかわからない」と答えた。また、項目 7 の位置は SPSS のようでも特に違和感がないと答えた。

総合考察

2 つのソフトによって出されたデンドログラムを元に被験者 X にインタビューをした結果から、はじめに示したりサーチクエスチョンに対して以下のような考察が得られた。

1) PAC 分析は発表者らが行っている日本語教師のピリーフ研究に適したものなのか。

本研究では、ソフトウェアの違いによりクラスター構造の相違が現れたことから、どちらが

より被験者の意識を正確に表しているのかを確かめるために X にインタビューを行った。

HALBAU で実施した際のコメントからは、SPSS の方が X の解釈に合うのではないかと予想したが、そうとは言えず、どちらのデンドログラムを見ても、被験者が納得する部分とそうでない部分が出てきた。つまり、ここまでの分析を通して、「いつ誰が見ても同じになる」ような客観的な 1 つの答が X の中にあり、それを表すデンドログラムが描き出せるわけではないと言えそうである。理由として以下の 2 つが考えられる。

教師のピリーフは被験者の中でも刻々と変動するもの・揺らぎのあるものであるため、被験者が持っているものを全て PAC 分析で明らかにするという事はできないのではないかと。

そのため、提示のされ方（上下にどんな項目があるか）によって被験者が納得したり違和感を感じたりするのではないかと。（例：項目 8）

に関しては、X に限らず他の日本語教師に対する調査からも被験者の中で項目同士の関係や重要度に関する評定に矛盾があることが窺えた²。日本語教師のピリーフのようなテーマでは、「コンプレックス」等と比較して揺れが出やすいということも考えられるが、このような矛盾が与える影響は PAC 分析学会メーリングリストでも指摘されており、その現象を心理学的事実として受け入れ、客観性を完全には担保しない、その後の発見を導き出すところが PAC 分析の良いところであるという考えもある。

日本語教育の研究分野ではピリーフがしばしば取り上げられるが、ピリーフ研究をする際は、ピリーフというものが被験者の中でも揺らぎをもって存在し、その揺らぎを含めて分析する必要があるということを踏まえた上で、分析ツールを使用する必要があるだろう。

2) PAC 分析は発表者らの研究にどのように利用できるのか。利用の意義はどのようなところにあり、何に留意したらいいのか。

A. PAC 分析を使う理由・利点

ピリーフ質問紙調査で得たデータの量的分析からはピリーフの背後にある理由やデータ同士の因果関係を客観的に説明するのは難しい。PAC 分析を用いることで、量的調査からは抽出されない解釈が加えられる。

内藤（1997）の言う「被験者自身のスキーマ

² ALSICAL で分析したところ、ストレス値が高く出たことから、評定に矛盾がある可能性が窺える。

という枠組み」により、自由連想法で調査者の想定外の内容を引き出すことが可能になる。また、被験者の個人的なエピソードとのつながりでその個人の態度を解釈することができる。

「自分が考えていること（PAC分析から得られた意識構造）と実際の行動（他の調査より観察）とのずれ」を明らかにすることで、質問紙調査などでは見えてこない本人の意識下にあるものが見えてくる可能性がある。

実験者の一方的解釈でなく、被験者の解釈が考慮に入れられる一方で、KJ法のように被験者自身にすべて操作が任されているわけではなく、ある程度デンドログラムによる縛りがあるため、被験者が意識していなかったことも引き出せる。

B. PAC分析を実施する上での留意点

クラスター分析のソフトウェアの操作は簡易であるが、自分たちがどのようなデータを扱っているのかにも注意を払い、分析・解釈の信頼性に問題が生じないようにする必要がある。

デンドログラムはソフトが違えばCL構成項目も変わるということを認識した上でデンドログラムを活用して、内藤他（2008）が言うように被験者に寄り添い同行しながらエピソードを引き出し、被験者とともに探索しようとする意識が必要である。

連想語は、長すぎると複数のポイントが含まれることになり、実験者の解釈にも被験者自身の想起にも影響を及ぼす可能性がある（例：項目5、11）。また、考えて文にまとめるため即興性が薄れ、「無意識」の思考を捉えるのに影響が出る可能性もある。一方、本研究のような対象に迫る場合には、単語にすると項目数が多くなったり、イメージを表すのが難しくなったりする可能性がある。従って、できるだけ単語で、難しい場合はもう少し長くなってもいい（例えば、「10字前後で」としたらどうか）。

インタビュー前にHALBAUとSPSS両方のデンドログラムを出し、インタビューのポイントを考え、被験者の話がより引き出しやすいと思われる方を使用してもいいのではないかと。

井上・伊藤（2008）で述べているように、MDS（多次元尺度法）など他の方法を併用することでクラスター分析結果の妥当性を検証するのも1つの方法である。

本研究は、日本語教師のピリーフ研究をする上でのPAC分析の客観性について検討し、その活用に当たっての意義と留意点について日本語教育の視点から考察を行った。PAC分析は他

の調査方法と比べて調査者の想定外の、時には被験者の意識していなかったエピソードまで引き出せる手法として、日本語教師のピリーフ研究に有効であると言えよう。一方で、本研究からは、PAC分析をする際は、デンドログラムの読み取りについての正しい知識を持ち、被験者からの語りに深く耳を傾け、被験者と共に解釈をするよう留意する必要があるということが改めてわかった。

文献

- 井上孝代・伊藤武彦（2008）「PAC分析の活用の意義と課題」『心理学紀要』（明治学院大学）18、47-56.
- 小澤伊久美・嶽肩志江・坪根由香里（2004）「日本語教育における教師の実践的思考に関する研究—ベテラン教師と新人教師の比較より—」『平成16年度 日本語教育学会春季大会予稿集』167-172.
- 小澤伊久美・嶽肩志江・坪根由香里（2006）「日本語教育における教師の実践的思考に関する研究（2）—新人・ベテラン教師の授業観察時のプロトコルと観察後のレポートとの比較より—」『ICU日本語教育研究』、ICU日本語教育研究センター2、1-21.
- 嶽肩志江・坪根由香里・小澤伊久美（2008）「日本語教育における教師の実践的思考に関する研究（3）—教師の実践的思考を探る上でのピリーフ質問紙調査の可能性と課題—」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』16、横浜国立大学留学生センター（投稿中）
- 坪根由香里・小澤伊久美・嶽肩志江（2005）「日本語教育における教師の実践的思考に関する研究（1）—新人教師とベテラン教師の授業観察後のレポートの比較より—」*Language Research Bulletin* Vol.20, ICU Division of Languages, English Language Program, and Japanese Language Programs, 75-89.
- 内藤哲雄（1997）「PAC分析の適用範囲と実施法」『人文科学論集<人間情報学科編>』31、信州大学人文学部.
- 内藤哲雄（2002）『PAC分析実施法入門 [改訂版] 「個」を科学する新技法への招待』ナカニシヤ出版.
- 内藤哲雄・井上孝代・伊藤武彦・岸太一編（2008）『PAC分析研究・実践集1』ナカニシヤ出版.
(Yukari Tsubone, Ikumi Ozawa, Yuki Takegata)

PAC 分析解釈への分析ワークシート利用についての検討

堀 恭子

横浜国立大学大学院 環境情報学府 博士後期課程

key words: インタビューデータ 分析ワークシート 構造構成的質的研究法

はじめに

本研究は、急速に進行する高齢化と共に大きな問題となりつつある認知症高齢者の介護について、以下の視点を枠組みとして臨床心理学的側面からの実証研究を試みるものである。すなわち、認知症の行動障害は認知症高齢者と介護する者との相互作用でつくられ、認知症高齢者介護の相互作用理解には、認知症高齢者の心理的理解と共に、介護者に生じている心理理解も必要である。

本研究では、先に述べた視点に立って認知症高齢者とその介護に携わる介護職員の相互作用の構造を検討する。方法として、高齢者介護施設における発表者の参与観察記録と、発表者がその現場に居合わせ、介護職員が印象深いと感じた出来事について、内容、介護職員の感じた・考えたこと、介護職員の取った言動とその結果としての認知症高齢者の変化・介護職員の感想の介護職員の記述データの構造分析、及び介護職員の役割意識についての PAC 分析を用いる。

また、これらの質的検討により得られた知見を基に、発表者の専門特性である臨床心理的側面から介護職員への支援方法を検討し、事例による実践と検証を繰り返し具体化させていく。

本発表は、本研究のうち PAC 分析を用いたインタビューの考察方法について検討したものである。被検者本人へのインタビューによって得られたデータから総合解釈へと進む段階は発表者のような初学者にとって大きな困難を伴う。そこで西條（2008）の構造構成的質的研究法に記述された方法を踏襲して、データとして得られたテキストを、分析ワークシートを用いて整理し、解釈へと進めた試みの報告である。

本発表では、まず分析を用いたインタビューについて報告し、最後に分析ワークシートを用いた解釈について検討を加える。

方法

被検者：認知症高齢者対象のデイサービス代

表者、40 歳代、女性。介護職の経験年数は 16 年 9 ヶ月。所有資格は介護福祉士、ケアマネージャー。

提示刺激：あなたがこのデイサービスで介護のお仕事をされている時について伺います。お仕事中に頭に浮かぶあなたの役割をお答え下さい。役割とは、お仕事中にあなたが何をしようと考えているか、どのような事をすべきだと考えているか、またはお仕事中のあなたはどんな存在か、などといったことです。

手続き：面接は被検者の勤務する施設の別室で行なわれた。第 1 回面接は、PAC アシスト 20070801（土田、2007）をインストールしたパソコンを使用し被検者自身に操作をしてもらい行なった。1 回目面接で得た非類似度行列を S P S S を使用して、クラスター分析にかけた。第 2 回面接は第 1 回面接の結果得たデンドログラムを提示して意味を説明した後、被検者から結果に対する被検者のイメージや解釈を聞いた。第 2 回面接は被検者の許可を得て録音した。

結果

クラスター分析の結果、図 1 のようなデンドログラムが得られた。重要順位の高い順におよそ 1/2 となる 4 項目を取り上げると、1) 責任、2) 発信、3) まとめ、4) 発想となる。第 1 クラスターは、「まとめ」～「発信」までの 5 項目であり、「発想」「責任」は独立している。

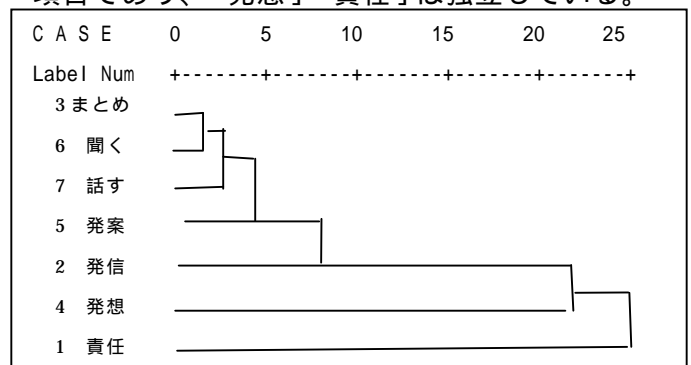


図 1 被検者のデンドログラム * 項目左の数値は重要順位

第 2 回面接の内容を逐語記録として言語デー

タにし、データからデンドログラムの項目ごとに西條（2008）の構造構成的質的研究法を踏襲して木下（2003）の分析ワークシートを作成、整理した。その際、「聞く」「話す」の2項目は常に同時に語られたため、一つの項目として分析ワークシートを作成した（表1）。

表1 分析ワークシート：項目ごと

項目名	聞く、話す
バリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からこう発信していきなさいいけない、・(中略)そのために、こう聞くとか話すとかの、出てきているっていう感じ ・発信のために聞くとか話すとか発案とかいうのがある ・長く話しやすい関係を作ったりとか、話せる環境を作ったりとかねえ
理論的メモ	発信、ボトムアップ、環境作りのツール

また、項目にはないが、項目間をつなぐ役割として語られた言葉(概念)「ボトムアップ」の分析ワークシートを作成した。(表2)

表2 分析ワークシート：被検者の命名概念

概念名	ボトムアップ
定義	スタッフの意見・考えを吸い上げること
バリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が話す、発信するとボトムアップしていきなさいいけないから、聞くとかが必要なのなあって思うんですけど ・ボトムアップさせるために発信しないと
理論的メモ	まとめ、聞く、話す、発案の項目をまとめた概念

総合考察

分析ワークシートを用いて被検者の役割意識を検討すると、被検者の中にはまず「責任」というのがあり、「責任」はいつも底に流れているような感じであり、その責任は具体的には「デイサービスをまとめていく」ということであると考えられる。「まとめる」という「責任」を負うことは、発信していき、関係を整える環境作りをしながら、様々なものをボトムアップしていく、循環であると考えられた。これらの構造を図示したものが図2である。被検者は日頃の勤務の中で、入浴や、午後のアクティビティなどの主だった業務の責任者になることはない。利用者に関わりつつデイサービス全体を眺め、意識の底流にあるのはデイサービス全体をどう

運営していくかということであると考えられる。

同じデイサービスの他職員の結果と比較することで、意識構造の違いについて考察し、デイサービス全体の構造についても検討できるのではないかと考えられる。

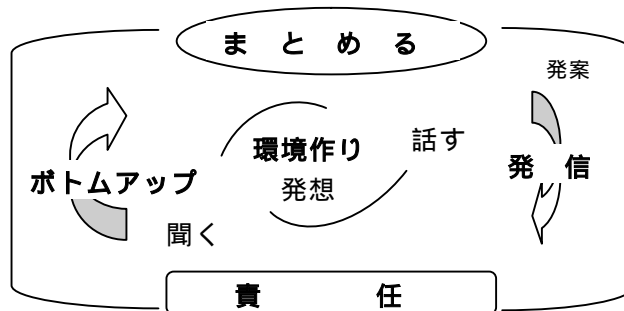


図2 構造モデル

分析ワークシートの使用について

内藤（2004）のいう、総合的解釈の第1～第3ステップに沿って検討すると、第1ステップ（被検者の内界を味わう）については、項目ごとに分析ワークシートを作成する作業は項目の背景にある「何か」をぼんやり味わうことを可能にしたと考えられる。しかし、分析ワークシートは文脈を無視するものではないにしろ、項目への注目を促進することは否めない。その分全体は味わいにくくなる可能性を意識する必要があるだろう。第2ステップ（解釈）については、分析ワークシートを用いて被検者の意識構造を明らかにする作業は、初学者である発表者にとって解釈のプロセスを可視化し理解を助けてくれた。また解釈の根拠を示しながら、解釈を導き出すプロセスを示すことは、広い意味での「反証可能性」を残すことになる(西條, 2008)と考えられる。しかし、このような検討が、解釈にあたるのかどうかは、多くの議論を得たいと考えている。第3ステップ（価値創造的な解釈）については、作成した構造モデルに被検者の分析以外から得られる情報を加えて検討することで可能になるのではないかと考える。

引用文献

- 木下康仁 2003 グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 弘文堂
 内藤哲雄 2004 PAC 分析実施法入門 ナカニシヤ出版
 西條剛央 2008 ライブ講義質的研究とはなにか 新曜社

Hori Kyoko

PAC 分析の拡張としての HITY 法による個人別態度構造分析

父母間の子育て観を比較した HITY 法 II 類を中心に

○伊藤武彦(和光大学)・芳澤宏樹(虎の門神経科 龍醫院)・井上孝代(明治学院大学)

key words:PAC 分析、HITY 法、育児

芳澤(2008)の育児観の夫婦比較の研究を進めるに当たり、PAC 分析を拡張した新しい態度構造分析の方法を開発した。これを第 1 著者、第 2 著者第 3 著者の姓名のイニシャルを組み合わせて HITY(ハイティーと発音)法名付けた。英語では、その発音と対話という特徴を生かす意味から High Tea Method(午後の紅茶法)と命名した。

HITY 法は(1)あるテーマについて要素(Element)と構成概念(Construct)を作成し、(2)各構成概念に対する要素の重要度を評定し、(3)評定されたデータから距離行列を作成し、その距離行列をクラスター分析と多次元尺度法(MDS)により統計処理し、その結果を樹形図(デンドログラム)と布置図として表現し、(4)その布置図に基づいて研究協力者と研究者が対話により、布置図の意味づけを行い、(5)研究協力者の個人的態度構造を明らかにする技法である。

HITY 法の手続きの解説

(1) 要素と構成概念(グリッド)の作成

(1)のプロセスは、簡便法と対話法と中間法があり、研究目的によって使い分ける。

簡便法は要素項目と構成概念を研究者が予め決めて提示する方法である。表 1 の行である構成概念(コンストラクト)と列である行動項目(エレメント)を決定するのは研究者である。本研究では簡便法によってデータ収集を行った、Yoshizawa, Ito, & Inoue (2008)の結果を紹介する。

対話法は要素項目と構成概念を対話により生成していく方法である。ティンダー(2008)が紹介しているパーソナル・コンストラクト技法としてのレポートリー-

グリッド法がある。これは、Thomas(1979)の開発した「エクステンジ・グリッド」の方法によっている。職場の上司というテーマについて、上司の個人名を研究協力者と研究者が対話して列挙し、その中から 3 人を選び類似点を持つ 2 者と相違点を持つ 1 人に付き、その類似点と相違点を参加者が命名することを研究者が援助するという関係で、コンストラクトを生成している。

中間法は、要素は研究者が予め提示するが、構成概念は研究協力者が生成するという、簡便法と対話法の折衷である。鍋島(未公刊)は色のイメージについて、8 色の要素は予め定めるが、それに対するコンストラクトを協力者に命名してもらっている中間法によってデータ収集中である。

(2) 各構成概念における要素の重要度の評定

表 1 にあるような記録用紙を用いて各要素についての各構成概念における重要度を協力者が評定する。これは、順位でも良いし、2 段階評定でも良い。5 段階評定や 10 段階評定などはなじみがあるだろう。ただし、同値(tie)を少なくするために、1 点から 100 点をつけてもよい。

(3) データ行列から樹形図と布置図を作成

評定されたデータから距離行列を作成し、距離行列をクラスター分析と MDS により計算し、計算結果を樹形図と布置図として表現する。PAC 分析でも HITY 法でも、距離行列を作成してそれをクラスター分析にかけるとは手続きが共通している。PAC 分析における距離行列の作成は評定された(非)類似度から直接 3 角形の対称行列を作成するのに対して、HITY 法においては、表 1 のようにコンストラクト(評価基準)を行とし、エレメント(12 項目の育児行動)を列とした行列

	子どもと一緒に公園に入る	オムツを替えた着替えなどの身の回りの世話をする	子どもの食事を作ったり食べさせたりなどの世話をする	子どもをいそいそと教える	子どもと散歩したり公園など、外で遊ぶ	室内で子どもとおもちゃやゲームで遊ぶ	子どもに絵本を読んでやったり、お話を聞かせる	子どもを寝かしつける	子どもが泣いた時なだめる	夜、子どもが目を覚ました時に対応する	保育園などに送っていく	一緒に買い物に行く
楽しい												
容易												
責任												
日常的												
充実												
安んぶ												

表 1 要素とコンストラクトの行列 (レポートリーグリッド)

(グリッド)から距離行列を生成する(SPSS では PROXIMITY コマンドを利用)。

クラスター分析の樹形図の作成:[分析][分類][階層クラスタ][クラスタ対称→変数][方法][クラスタ化の方法→ワード Ward 法][続行][作図][デンドログラムにチェック][つららプロット→なし][続行][OK]で PROXIMITY と CLUSTER が実行され、樹形図が得られる。

MDS の布置図の作成:[分析][尺度][多次元尺度法 (ALSCAL)][データから距離行列を作成][測定方法→間隔→ユークリッド距離][距離行列の作成→変数間][続行][オプション][被験者ごとのプロットとデータ行列にチェック][続行][変数を左から右に投入する][OK]で PROXIMITY による距離行列と ALSCAL による MDS の布置図とが両方得られる。なお、MDS の次元数については、高次の布置にしてストレスを低めるよりも、最初から二次元布置に固定したほうが良い。それは視覚的に地図を見るように解釈理解が可能だからである。

(4) 布置図に基づく研究協力者と研究者の対話

研究者側の準備

MDS の Stress 値と R² 値の検討: Stress 値は小さいほどよい (Kruskal & Wish, 1980) .10 以下の値であることが望ましいが、.10 以上であってもだめだということではない。R² 値は決定係数である。パーセンテージにして、距離行列の関係を布置図が何%表現しているかを見る指標である。

意味関係を基に、布置内に軸を自由に設定しても良い。布置は回転が可能であるし、軸は斜交でもよいし、原点を通らなくても良い(好きなように引ける)。

クラスター分析は MDS の布置図の 解釈の手がかりとして有効である (Kruskal & Wish, 1980)。クラスター分析によって、MDS 項目を囲う「島」を作成する。樹形図の結果から機械的に作成してもよいし、樹形図を参考にしながらも、項目内容を吟味しつつ、KJ 法のように手作業で「島」作りをおこなってもよいだろう。

実際の面接

まずはじめに、MDS の布置図(島なし)を見せ、研究協力者に見方を説明する。次に研究協力者はその布置図の解釈をする。次に研究者が協力者に島付き図をみせ説明する。

(5) 総合的解釈の段階

HITY 法 I 類の場合は、各父親の育児イメージ構造の解明と、4 人の父親間の構造の比較を行った。

HITY 法 II 類では、父親母親がそれぞれ自分と相手の布置図を前にした対話に基づいて各々のペアについて考察した。

HITY 法 III 類では、父親 4 人の共通構造、父親母親各ペアごとの共通構造、協力者 8 人全員の共通構造を出すことが出来る。

結果と考察

ある父親の育児イメージ構造の例を図 1 に示す。

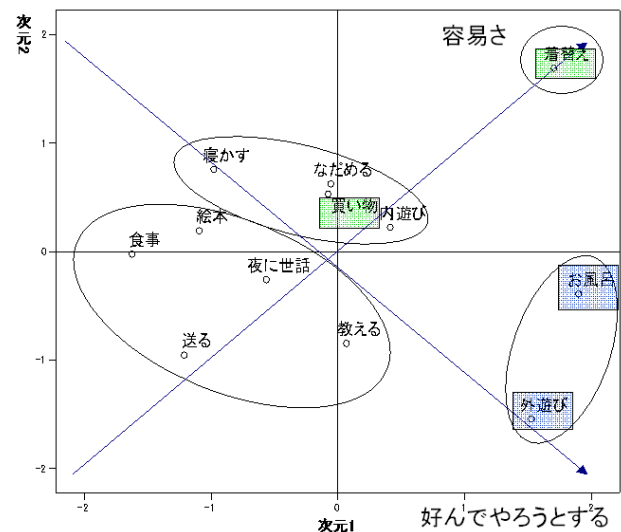


図 1 父親 A の育児態度構造 (HITY 法 I 類)

HITY 法 I 類による図 1 では、育児項目が大きく 4 つの島に分かれた。これらの 4 つの島の特徴を対話していく中で、「好んでやろうとする」という軸と「容易さ」という軸の 2 つの軸が見いだされ、育児行動が説明できた。2 軸により 4 象限に分類することも可能である。

これらの父親の育児イメージ構造の 4 例を、研究者が比較してみると以下の 2 点が明らかになった。

- ① 育児イメージ構造の中に共通したイメージの育児行動がある(例:「お風呂」・「外遊び」など楽しい活動)。
- ② 育児イメージの全体的な構造としては父親個人により異なっている(例:「買い物」・「着替え」などは父親により位置が違う)。

子どもとの関わりにおいて、父親は共通して「遊び要素の強い育児」には肯定的イメージを持っているが、子どもの年齢や子どもの人数など、様々な条件の影響により育児イメージ構造が異なると考えられる。

HITY 法 II 類では、(3)で生成した布置図をまず協力者個人が自分で解釈した後、協力者のペアがお互いの相手の布置図についての検討を行うプロセスが付け加わる。

HITY 法 II 類による図 2 に基づく夫婦 D の対話

夫 D:「妻は妊娠しているし、買い物とかは大変なんじゃないのかな。こういうところを自分がやればバランスいいね。」
 妻 D:「自分は、妊娠しているから買い物とか負担になっているけど、夫がそういうのが好きだとはわからなかったし、夫がどういう気持ちで子育てしているのかわかってよかった。今まで夫に命令口調だったけど、好きなもの(買い物やお風呂)に対してはもっと軽く言ってもやってくれそう。」

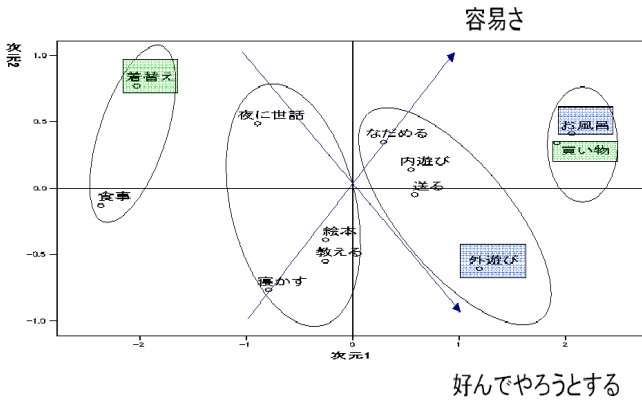


図 2-1 父親 D の育児態度構造 (HITY 法 II 類)

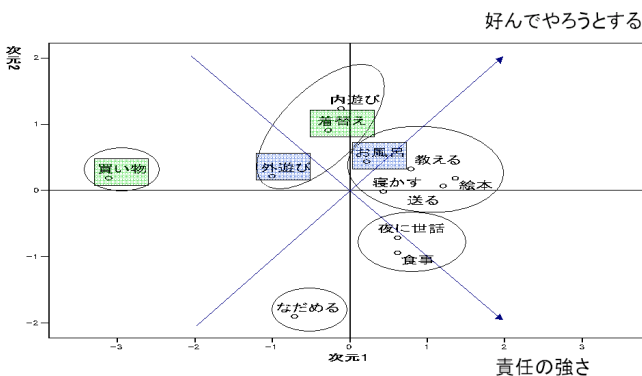


図 2-2 母親 D の育児態度構造 (HITY 法 II 類)

配偶者の育児イメージ構造を互いに理解することで、配偶者の負担などにも気づきを得られ、育児意欲の変化が生じる可能性がある。お互いの育児イメージ構造を理解することで、夫婦が歩み寄り、育児に対する考え方の溝が埋まり、負担が少なく夫婦で協力して育児することができると思われた。

PAC 分析と HITY 法の比較

HITY 法のプロセスは PAC 分析 (内藤, 1997/2002) と多くの共通点がある。HITY 法は PAC 分析を拡張した新しい態度構造分析手法である。

HITY 法の手続きの構造は、PAC 分析の流れ、すなわち、①自由連想、②項目間の類似度評定、③距離行列によるクラスター分析、④被験者によるクラスター構造の解釈やイメージの報告、⑤実験者による総合的解釈、と以下のように対比できる。

①PAC 分析の自由連想段階では、自由連想は被験者自身のスキーマやカテゴリー認知といったものの構造と機能を探るための素材をえる。PAC 分析ほど個人の内界を表現した結果ではなく、どちらかという表層の意識されている部分である。しかし、同一の育児行動を項目として使用するので、調査協力者間の比較も可能となっている。

HITY 法でも、今回の簡便法ではなく「対話法」を用いれば協力者からの要素と構成素の直接抽出が可能だ。

②連想項目間の類似度評定段階では PAC 分析では直接的に類似度が決定される。HITY 法ではグリッド行列より類似度行列を生成する。

③PAC 分析ではクラスター分析で樹形図を被験者への刺激(対話材料)とするが、HITY 法では MDS の布置図も利用し、それがメインとなる。

MDS で導き出される 2 次元空間はその調査協力者のイメージ構造、言い換えれば「地図」のようなものであり、クラスター分析のデンドログラムよりも、育児行動それぞれの距離感を視覚的に認識し易いと考えたからである。さらに、MDS では説明率も算出されるため、その布置とデータがどの程度のデータとずれているか(ストレス)が客観的にわかることも長所の一つだと考えられる。

④被験者による解釈・イメージの報告段階では、喚起されるイメージ、項目群がそれぞれにまとまった理由の解釈、さらに補足的に項目単独で喚起されるイメージは PAC 分析ではクラスターによるが、HITY 法では布置図による。この布置図を利用した面接では、調査協力者自身が育児行動を自分なりの「島」に分けることが、自分自身への気づきを促進していたと思われる。これは PAC 分析と同様の効果を得られていると思われる。さらに、配偶者の MDS の布置を対比的に見ることによって配偶者への気づきも生まれていた。

⑤PAC 分析では、総合解釈段階で、①連想順位、②連想内容、③連想項目数、④重要度順位、⑤デンドログラム、⑥被験者によるイメージと解釈(クラスターごと)、⑦被験者によるイメージと解釈(クラスター間)、⑧補足の質問(項目単独のイメージ)、⑨各項目の+-0 のイメージ、⑩被験者の非言語的行動、などの情報を得て総合的な解釈を得る。

HITY 法のカウンセリングへの導入

井上(1998)は PAC 分析の 11 の機能を大きく 3 つの機能分野に整理している。①カウンセラーとクライアントの関係に着目した分野、②クライアントの内面での問題への認識と自己理解を深める分野、③クライアントの内界世界を第三者にも可能な形で提示する客観的なデータ・資料・査定・評価としての道具としての分野、の 3 つである。さらにその分野ごとに効果を検討し、

11 の効果を導き出している。

本研究では、**簡便法**による 1 回目の面接は比較的内り込みやすいであろう質問紙調査のような形式となっており、また、内容的にも調査協力者にとって近寄りたがたいものではなかったと思われる。そして、1 回目の調査を質問紙でなく面接の形式にし、2 回面接を行なうことにより、より詳しく聞いていく段階の第 2 回目の面接に向けて信頼関係を築く意味でも意味があった。

また、協力者に MDS を「島」に分けてもらう作業をさせているが、研究者も「島」に分けることを行い、協力者と研究者がその分け方をつき合わせることによって、共通理解が深まる。そして、共通理解が深まったことで日常のことも話し易くなったと考えられる。協力者が自分の結果と配偶者の結果を理解することで、自己理解や他者理解が進み、そこから自分がどのように育児に関わっていけばいいのか気づきが生まれていた。

HITY 法は、①MDS の布置が視覚的に理解しやすく、説明率も算出される、②調査対象者への気づきを促進する、③個別性を有しながらも比較が出来るという点において有効であったと考えられる。

PAC 分析の深さに比べて HITY 法は侵襲性が少ない。この点で使い勝手が良いかもしれない。

研究デザインの視点からの方法論的考察

John W. Creswell (2007) はその著書で、量的研究・質的研究といったデザインの他に「ミックス法 (mixed methods)」について説明している。ミックス法とは、量的研究と質的研究を一緒に用いる方法であるが、ミックス法は、いくつかの基準からその方略を特定化し、説明する必要があるとされている。その基準とは、①順序性があるかないかという「実施」、②質的アプローチと量的アプローチのどちらに重きをおいているのかという「優先度」、③2 種類のデータの統合がいつなされるのかという「統合」、④暗示的に理論を示すが、明示的に理論を示すかという「理論的パースペクティブ」の 4 つである。これらの基準を考え代表的な方略と照らし合わせると、HITY 法は、順次的説明的方略 (sequential explanatory strategy) である。

順次的説明的方略の特徴として、量的データの収集と分析の次に質的データの収集と分析がある。量的データと質的データは解釈の段階で統合され、理論的パースペクティブが用いられる場合もあれば用いられない場合もある。HITY 法は、①面接法であるが量的データを収集する構造化面接によるデータ収集、②MDS・クラスター分析を用いた分析、③結果を見せながらの面接という流れで行われており、また、③で得られたデータは MDS を解釈するに当たっての補助的データとして位置づけ MDS を重視している点からも、順次的説明的戦略であると考えられる。

井上・伊藤 (2008) では、PAC 分析と HITY 法は「乗算的ミックス法」と位置づけられる。

まとめと展望

HITY 法は、1 名の実験協力者からなる I 類と、2 名のペアの被験者からなる II 類と 2 名以上の複数の実験協力者からなる III 類がある。**HITY 法 I 類**は、対話プロセスを研究協力者と研究者の一対一で進めるやり方である。これは PAC 分析と共通する方法である。

HITY 法 II 類は、(4)のプロセスをペアの実験協力者(2名)と研究者の合計3名の対話によっておこなわれる。ペアは夫婦、双生児、親子、きょうだい、カップル、場合によっては対立する紛争当事者にも友好であろう。なお、研究協力者を2名に限らず3名以上でも有効であるかどうかは現在検討中である。樹形図でなく MDS による布置図を(5)で用いることから、このような 2 者間の比較が可能となった。

HITY 法 III 類は、I 類や II 類の方法で得られた複数の距離行列データを、ALSCAL を使って個人別 MDS を計算するのではなく、個人差多次元尺度法 (INDSCAL; Kruskal & Wish, 高根 1980; 岡田・今泉, 1994) を用いる (エレメントを同じものにそろえる必要があるため、(1) は簡便法または中間法で行う必要がある)。それにより、共通の 2 つの次元 (例: 「育児の楽しさ-つらさ」と「育児の容易性-困難性」) を抽出する。各次元における、被験者が与えるウェイトによって、個人差が説明される。各次元は I 類・II 類の「軸」に相当し、その意味が解釈の対象となる。

HITY 法は①効果的で②楽しく実施でき③安心で④簡便でアクセスし易く⑤短時間で行える研究法である。学生の実験実習や卒論等の方法にも活用できる。

【文献】

- Creswell, J.W. (操・森岡訳 2007) 研究デザイン: 質的・量的・そしてミックス法 日本看護協会出版会
- 井上孝代 1998 カウンセリングにおける PAC (個人別態度構造) 分析の効果 心理学研究, 69, 295-303.
- 井上孝代・伊藤武彦 2008 PAC 分析の活用の意義と課題 心理学紀要 (明治学院大学), 18, 47-56.
- Kruskal, J.B., & Wish, M. 高根芳雄 (訳) 1980 多次元尺度法 朝倉書店
- 岡太彬訓・今泉忠 1994 パソコン多次元尺度構成法 共立出版
- 内藤哲夫 1997/2002 PAC 分析実施法入門 ナカニシヤ
- 芳澤宏樹 2008 父親が就学前の子どもを育児することの意味 明治学院大学修士論文 (心理学)
- Yoshizawa, Ito, T., & Inoue, T. 2008 *Roles and meanings of childrearing for a couple: A basis for family psychotherapy.* 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting, 330.

(Takehiko Ito, Hiroki Yoshizawa, Takayo Inoue)